

かみきり



交尾するアカムネハナカミキリ

(長野県南佐久郡川上村梓山, 1978年7月22日, 伊藤弥寿彦撮影)

No. 4

1978年8月  
日本鞘翅目学会

さ や ば ね      No. 4      目      次

---

グラビア：

第2回・日本鞘翅目学会スナップ／第2回名古屋支部例会スナップ／青森県のシデムシ

平山洋人，郷速，斎藤秀生，鈴木互，藤田宏

：日本鞘翅目学会第1回総会レポート…………… 1

穂積俊文：第2回名古屋支部例会記…………… 5

衣笠恵士，藤田宏：南会津（湯の花・桧枝岐地方）のカミキリ（追加記録Ⅰ）

…………… 6

下山健作：青森県のシデムシ科目録…………… 7

会 員 動 静…………… 11

収支決算報告…………… 14

編 集 後 記…………… 14

日本および台湾産カミキリ大図鑑発行のお知らせ…………… 15

表紙題字：畑山千枝      表紙レイアウト：藤田 宏



## 第2回・日本鞘翅目学会スナッフ

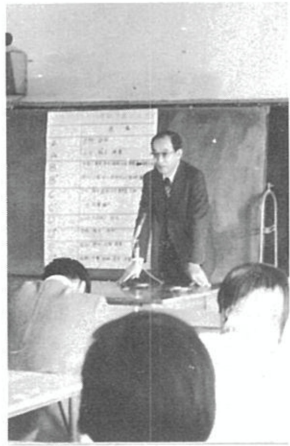
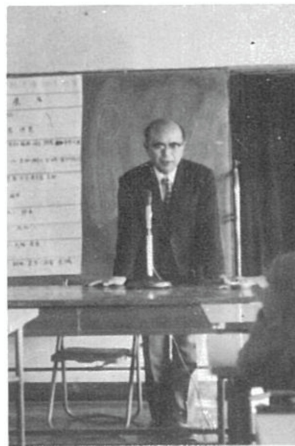
(本文1～4ページ)

1977年も大がかりな総会が開かれました。前年の第1回目は、全国から90余名の甲虫屋が集まり、異例の人出と言われたのですが、第2回はさらにそれをしのいでしまいました。前回の3倍近い会場も推定120人近くの人で満員。いよいよ年1回の甲虫屋の祭典として定着した感がありました。心よく会場を提供して下さい、東京教育大学付属駒場中学校の重松樫三先生には厚く御礼申し上げたいと思います。

この写真は郡山信夫・井野川重則両氏の撮られたものを、お借りして構成してみました。ちょっとピンボケなところはお愛嬌。

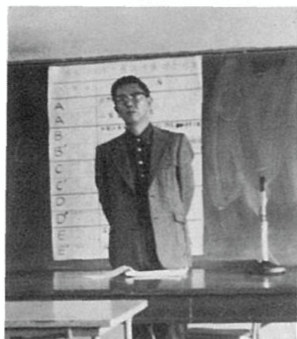
今年の第3回総会は、また、11月の第2か第3日曜日に行なわれる予定です。新たな企画を用意しているのでご期待下さい。それにしても第1、2回と、運営の大役をおおせつかって死にそうです。せめて第4回くらいからは誰か他の人になって欲しいなあ……。

(藤田)

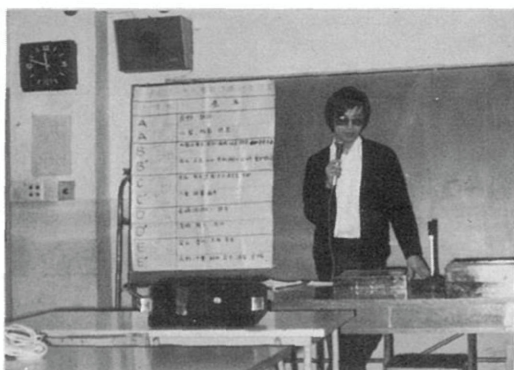


▲左から、伊智正汎氏、穂積俊文氏、黒沢良彦博士、高桑正敏氏

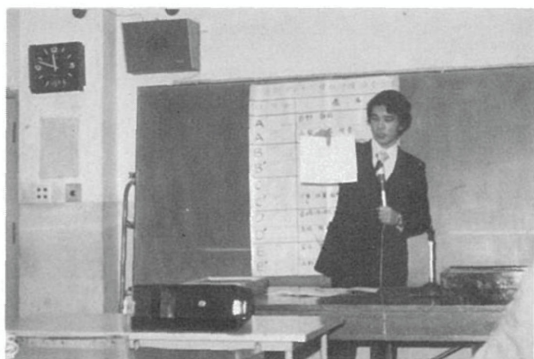




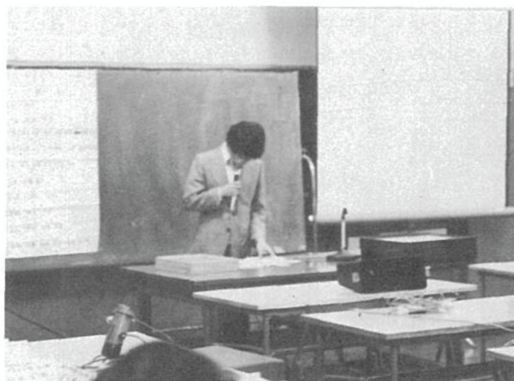
▲「三好屋のナベでオニホソコバネの幼虫を煮て以来、あそこのダシはよくなった……」等、郷氏一流のユーモアを混えての講演は、長時間、多勢の聴衆を魅きつけていた。  
(カミキリの生態を追って)



▲質問に窮する藤田氏。  
(日本～台湾産トゲウスバカミキリ亜属の整理)



▲斉藤秀生氏。  
(台湾中部のPidonia属について)



▲鈴木 互氏。  
(台湾産Csikia属について)

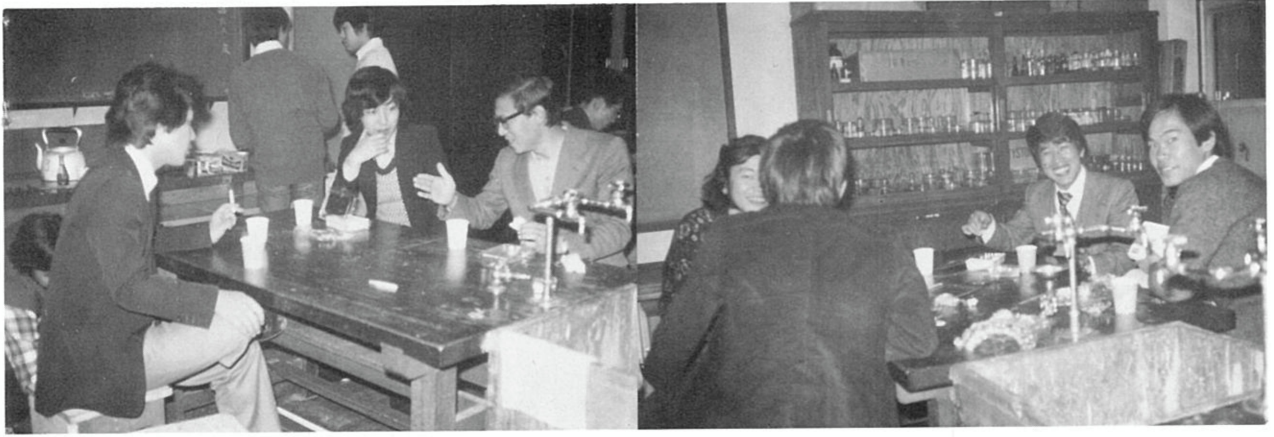
▼大量の標本が持ちこまれ、いつもなかなか終わらない同定会。同定して下さる先生方は大変である。







控室。軽食を食べながら話がはずむ……どころではなく、オニのように騒しい。



第2回・名古屋支部例会スナップ (本文5ページ)



# 青森県のシデムシ

(本文7~10ページ)



1



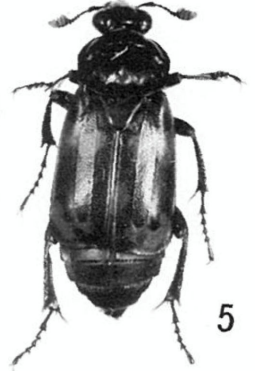
2



3



4



5



6



7



8



9



10



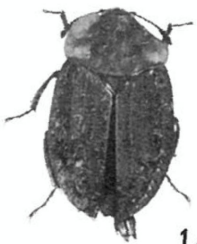
11



12



13



14



15



16



17



18



# 日本鞘翅目学会第2回総会レポート

平山 洋人

日時：1977年11月20日(日) 午後0:30～8:00

場所：東京駒場・東京教育大学付属駒場中学校

## ○講演

郷 遠氏「カミキリの生態を追って」

斉藤秀生氏「台湾中部の *Pidonia* 属について」

鈴木 互氏「台湾産 *Csikia* 属について」

藤田 宏氏「日本～台湾産トゲウスバカミキリ亜属の整理」

## ○同定会(順不同・敬称略)

ゴミムシ科(森田誠司), オサムシ科(小宮次郎・奥村尚), コガネムシ科(益本仁雄・石田正明・長尾悟), クワガタムシ科(境野広行), ジョウカイボン科(斉藤秀生), カッコウムシ科(中村俊彦), タマムシ科(秋山黄洋), コメツキムシ科(鈴木互), テントウムシ科(窪木幹夫), ゴミムシダマシ科(近藤茂昭), ナガクテキムシ科(中村), ハナノミ科(高桑正敏), カミキリムシ科(草間慶一・露木繁雄・小宮・中村・高桑・藤田宏), ヒメハナカミキリ属(窪木・斉藤), ハムシ科(小宮義璋), ゾウムシ科(江本健一), オトシブミ科(三陰外茂治), その他(益本・石田・長尾)

本年度の総会も前を上回る盛況のうちに幕を閉じることができた。昨年に引き続き当日の模様をいかつままで報告させていただく。

まず開会の辞に際し、草間会長は、日本産カミキリムシ科の調査状況について県別の表を示しながら現状を説明された。近年カミキリの愛好者は急速に増えているが、いざ県別の状況をみると改めて調査課題の多さを思い知らされる。また、国立科学博物館の黒沢良彦博士、名古屋支部の穂積俊文、大阪の伊賀正汎両氏から、それぞれ御挨拶をいただいた。

本会に入って、高桑・藤田両役員から会計および今後の活動方針などについての報告があり、台湾産と日本産のカミキリ大図鑑発行の計画が発表され、いずれも満場の拍手を持って承認された。

県別カミキリ種類・予備調査結果

クラス	種類	県名
A	270以上	長野・静岡 [310] [290]
A'	269 ～250	山梨・福島・徳島 [267] [259] [254]
B	249 ～230	和歌山・東京・高知・福岡・岐阜・群馬・愛媛・兵庫 [249]
B'	229 ～210	岡山・広島・山口・鳥取・神奈川・宮崎・愛知・新潟 [210]
C	209 ～190	青森・栃木・鳥根・大分・鹿児島・京都
C'	189 ～170	三重・佐賀・福井
D	169 ～150	長崎(除く対馬)・熊本
D'	149 ～100	茨城・埼玉・石川
E	99 ～50	富山・香川・大阪・奈良
E'	49 ～0	山形・千葉・秋田・岩手・滋賀・宮城



会はこの後講演へと移り、スライドや多彩な標本を使ったユニークな講演が続いた。各講演の内容は例によって別項を参照願うこととするが、中でも郷氏のカミキリの幼生期生態に関する講話は、大部分の研究者にとってはまだ未知な点が多い分野だけにきわめて異彩を放つものであった。

講演後は本年も同定会を行なったが、現在このような企画を持つ機関が他にほとんどないせいもあってか、あいかわらずの繁盛ぶりで、遅くまで会場整備や接待に奔走させられた幹事連以外には？満足のいくものであったことと思う。昨年に比べ運営面ではスムーズであったといえようが、それでも講演が予定より一時間あまりも延びたため、遠方から参加の会員の中には帰りの列車の時刻を気にしてか、やむなく講演途中で専門家の方に同定をお願いして帰られた方もあったようだ。こういった方々にはこの場で改めてお詫び申し上げなければならない。このような事態は会の拡大にともない今後とも生ずる可能性があるため、いずれは総会の際の宿泊施設の案内・指定などについても検討する必要がある。最後に今回も同定会に御協力くださった専門家の方々に幹事の1人として深く感謝の意を表わしたい。

なお、当日の出席者は次のとおり。(五十音順、敬称略)

青木小四郎	秋葉孝雄	秋山黄洋	阿部芳久	新井久保	伊賀正汎	石川正一
石田正明	和泉敦夫	伊藤 淳	伊藤敏仁	伊藤弥寿彦	井野川重則	今村佳英
岩崎 靖	上野紀武	海老原裕之	江本健一	大木 裕	大桃定洋	小笠原隆
岡田守夫	奥村 尚	小田義広	小沼孝行	小野直史	笠原須磨生	加藤忠男
蟹江 昇	神垣匡伸	川田一之	川田道夫	柏井伸夫	木附嘉理	衣笠恵士
木下富夫	木村義夫	草刈広一	草間慶一	楠井善久	窪木幹夫	黒岩一広
黒沢良彦	郷 遠	郡山信夫	小坂 隆	小林一之	小林敏男	小宮次郎
小宮義璋	近藤茂昭	斉藤秀生	境野広行	須賀邦耀	杉山 勉	鈴木和利
鈴木恭一	鈴木 互	田尾美野留	高桑正敏	武智昭一	多比良嘉晃	田村隆宏
津崎 満	坪井俊久	露木繁雄	遠山雅夫	長尾 悟	中村俊彦	中山不羈
新里達也	根岸秀夫	浜口正博	平井 勇	平井克男	平野幸彦	平山洋人
藤田 宏	福田惣一	穂積俊文	前波鉄也	益本仁雄	松本忠之	松本俊信
三浦幹夫	三藤外茂治	峰 薫	三宅正行	宮谷秀明	森 康真	森田誠司
守屋健次	安永一正	矢田秀雄	矢野立志	山上 明	山本泰子	

当日の幹事：大木 裕(司会)、藤田 宏(運営)、川田一之、小笠原隆、新里達也、森 康真、平山洋人

## カミキリの生態を追って

### 郷 遠

自己流のカミキリの生態観察の仕方を解説するかたわら、観察中出会う野や山の人々との協調の仕方、完全な標本固定法の必要性、将来生態観察をする人々が増えるに従い、功を急ぐあまり粗雑な報告が多くならぬよう、例えば同じ種を追うもの同志が横の連絡を密にして協同開発することの必要性などについて提案し、余った時間で *Necydalis* 属のエピソードやクビアカモモプトホソカミキリなどの思い出を語った。

○主な内容：幼虫の採集法、ホストの同定、天敵、飼育について(草木、樹皮、材、オガ屑および人工飼料によるもの)、生態の観察方法(卵から成虫の交尾・産卵まで)、観察のまとめ方(液浸標本の作り方、生体幼虫・蛹の観察法、写真撮影、作図)

# 台湾中部の *Pidonia* 属について

齊藤 秀生

台湾からは現在まで、1 synonymを含む9種の *Pidonia* の記載がされている。

- Pidonia* (*Pidonia*) *albomaculata* (Matsushita, 1931)
- Pidonia* (*Pidonia*) *aenipennis* (Gressitt, 1935)
- Pidonia* (*Pidonia*) *subaenea* (Gressitt, 1935)
- Pidonia* (*Pidonia*) *occipitalis* (Gressitt, 1935)
- Pidonia* (*Mumon*) *debilis formosana* Tamanuki et Mitono, 1939
- Pidonia* *cyanea* Tamanuki, 1942
- =*Anoplodera* *breva* (Gressitt, 1935)
- synonymized by Hayashi, 1968
- Pidonia* (*Pidonia*) *submetallica* Hayashi, 1974
- Pidonia* (*Pidonia*) *binigrosignata* Hayashi, 1974
- \**Pidonia* (*Pidonia*) *paradisicola* Kuboki, 1977

※発表当時は記載されていなかった種。

しかし、これらの種のほとんどが1個体あるいはごく少数個体に基づいて記載されているため、また、記載後の記録がほとんどないということもあいまって各種の同定を正確にすることができなかつた。今回、筆者は明らかに11種以上の種を採集し検することができたが、それらは下記の通りである。

- 松崗一梅峯一翠峯では上記の5種を含め7種の *Pidonia* が採集された。
- 碧緑神木付近では上記の2種を含め8種の *Pidonia* が採集された。

台湾産の *Pidonia* 属の研究は、現在まで記載された種を明白に把握し、新種の記載をすませなければまったく進まないという現状である。したがって、今後は新種の記載をなるべく早くすませ、現在まで記載されている種を明らかにしなければならない。さらには各種の生息地・出現期などの記録や、地域及び個体変異についての記載もしていく必要がある。

なお、当日出席された方には、台湾産 *Pidonia* 属のリスト、台湾中部採集地の概念図、台湾産 *Pidonia* 各種の肢・ゲニタリアの形態を図示したプリント (A4版、3枚) を配布した。

# 台湾産 *Csikia* 属について

鈴木 互

*Csikia* 属はコメツキムシ科の *Senodoniinae* 亜科に含まれる属で、現在までに台湾から3種 (*C. dimatoides* Szombathy, *C. taiwana* Miwa, *C. formosana* Ohira)、ボルネオから2種 (*C. tenompokensis* Ohira, *C. kanbaranga* Ohira) が知られている。演者は1年ほどまえから

この特異な形態をした *Csikia* 属に興味をもち、その分類と分布の調査を行なっている。しかしながら、現時点では東南アジアの種類を直接調べることができたものが少ないため、今回は台湾産のものについて発表し、東南アジアのものについては補足的に説明した。

(1)台湾から新種・新亜種などを含め、6種2亜種を見出すことができたので、これらのものについて説明をした。

(2)これら台湾の *Csikia* の外部形態について比較検討したところ、3つの小さなグループに分けられた。また、ネパール・マレー・ボルネオなどの地域のものを含めると5つの小さなグループに分けられるようである。

今回の発表でとり扱った種類数は少ないが、将来東南アジアの調査が進むことによってかなりの種類が増えるものと予想される。また、これらいくつかに分けられた小グループの系統関係についても将来的に明らかになるものと思われる。

当日出席された方には、台湾産 *Csikia* 属の検索表、コメツキの腹面および側面図、*Csikia* 属各種のゲニタリアを図示したプリント (A4版、2枚) を配布した。

## 日本～台湾産トゲウスバカミキリ亜属の整理

藤 田 宏

日本国内の四国・屋久島・奄美大島・沖縄本島・石垣島・八丈島産 *Spinimegopsis* と台湾産の *S. buckleyi formosana*・マレーシア産の *buckleyi buckleyi* など約50頭の本亜属の標本をもとに、現時点で考えられるグルーピングを試みた。

この亜属のカミキリは個体数のきわめて少ないことと、同一地域でも比較的個体変異が著しいことにより今まで明確な分類がしにくかったものであるが、今回集めてみた標本から、日本～台湾の各地の個体がいずれもかなり近縁なものであるということが明らかになった。

四国～屋久島のもの、奄美大島～沖縄本島～石垣島～西表島のはそれぞれよく似ており、伊豆八丈島のもは両者の中間的な形質をもっている。また、台湾の *buckleyi formosana* は *buckleyi buckleyi* よりも日本の奄美以南のものによく似ている。

八丈島のものについては、近く改めて発表したいと考えている。



# 第2回名古屋支部例会記

穂積俊文

昭和53年3月12日(日)

会場：愛知県産業貿易会館(名古屋市中区)

関西では奈良のお水取り行事が行なわれると暖くなるといわれている。3月12日はまさにその日であるが、まだ寒い。蜻蛉を過ぎても虫だよりは聞かれず、冬期採集もぼつぼつ終り頃で暖くなるのを待ち望んでいる虫友も多い時期である。

今回は小宮次郎氏を招待し、名古屋付近の人々23人の参加者があった。

講師の小宮氏を囲んで、なごやかな雰囲気の中で熱心に虫談にふける。供覧用標本持参者は15名あり、白井氏夫妻の豊橋市付近のカミキリムシ、豊島氏の北海道のカミキリムシ、河路氏の飼育中のコブヤハズカミキリ類、岩崎氏のゴミムシ、穂積のハムシなどに話題は集中した。

当日の講演は

ラミーカミキリの分布(予報)……………穂積俊文

東南アジアの甲虫……………佐藤正孝

日本産 *Pidonia* 属の分類……………小宮次郎

出席者氏名(アイウエオ順)

岩崎 博	井野川重則	大塚 篤	河路掛吾	鎌苅哲二	加藤昭児	蟹江 昇
小粥秀祐	小宮次郎	佐藤正孝	坂上光一	杉山 勉	白井勝己	白井昌子
豊島亮司	成瀬善一郎	早川寿彦	伏原隆明	穂積俊文	松野更一	水谷高弘
山崎隆弘	湯沢宜久					

なお、支部長に穂積俊文、副支部長に佐藤正孝、庶務連絡係に井野川重則が決定した。

# 南会津(湯の花・檜枝岐地方)のカミキリ

## —追加記録(1)—

衣笠 恵士<sup>\*)</sup>・藤田 宏<sup>\*\*)</sup>

本誌№3(1977)に掲載したリストに、次の4種の追加ができたので報告しておく。

228. *Enoploderes bicolor* Ohbayashi ヒラヤマコブハナカミキリ

チップ工場：5.VI.1977(小野)

チップ工場の土場を飛んでいた個体とのことで、大型の♀である。時期的にも遅い記録で興味深い。

229. *Allotraeus (Allotraeus) sphaerioninus* Bates トビイロカミキリ

檜枝岐：12.VI.1977(蓮尾)

230. *Sybra unifasciata* Fujimura ヒトオビチビカミキリ

舟又：28.V.1978[材採集]，3~7.VI.1978[羽化](森島)

舟又林道奥の土場にあった直径8cmほどのモミ枯枝を持ちかえったところ、1♂2♀♀が羽化したということである。

231. *Annamanum griseolum* (Bates) ゴマフキマダラカミキリ

檜枝岐：4.VI.1977(武智)

以上4種の他にも、いくつか興味のある種がその後採集されているので書きとめておきたい。

まず、1949年の原記載以来30年近く採れていなかった同地のクロサワヒメコバネが、1977年6月26日、森島直哉氏によって1♀採集されたことが注目される。かなり大型の個体で、筆者の見た標本のかぎりでは、本種は北へ行くほど大型化するようである。中部以北ではこの記録をいれてもまだ3頭しか採れておらず、きわめて稀な種と思われる。新田原の製材所付近のスィーピングで得られたとのこと。

また、同じく1頭しか記録のなかったヒゲナガアメイロが1977年6月4~5日に葭平付近のミズキ花上で4頭、同年6月11~12日に舟又林道のウワミズザクラ花上で1頭採集されており、1978年にも1頭得られている。小林敏男氏は檜枝岐のクルミ類の枯枝(フタスジゴマフのいたもの)を持ち帰り、本種を1頭羽化させている。南会津地方には割と広域に分布している種のようなものである。

データを教えて下さった各氏に深謝したい。今後も追加の種がでた場合は、適時報告をしていく予定なので、リスト中231種に含まれていない種を採集された方は、筆者らまで御一報いただければ幸いである。

(衣笠：〒336 浦和市領家4-9-15)

(藤田：〒110 台東区台東2-29-6)

# 青森県のシデムシ科目録

下山 健作

シデムシ科の甲虫は、1) ゴミ捨て場・人獣糞・動物の死体などに集まり、悪臭があつて集める人が少ない 2) オサムシやネズミ採りのトラップによく入る 3) 種類があまり多くない、などの点から近年集めてみる気をおこし、青森県産の本科をまとめてみることにした。

このリストの記入は、A: 分布、B: 採集場所と年月日、C: 採集できた期間、観察、その他とした。採集地は、青森市の酸ヶ湯、黒石市の温湯・青荷・蛭貝沢、東津軽郡の竜飛・増川・矢形石山・湯の沢、西津軽郡の青鹿山・追良瀬・深浦・十二湖、南津軽郡平賀町の柏木・沖館・矢捨・ニツ森・葛川・温川・十和田、北津軽郡の中里・小泊などである。なお、増川・矢形石山・湯の沢の採集品は青森県立郷土館の津軽半島北端部総合調査に参加した時に得たものである。

本目録の作成にあたって、同定の便宜を賜った中根猛彦博士、標本写真の撮影をして下さった松香宏隆氏、そして標本の御援助をいただいた今純一・佐藤周二の両氏および深浦中学校の竹越富美子教諭に深謝の意を表したい。

## Silphidae シデムシ科

### 1. ツガルチシマシデムシ *Lyrosoma chujoii* Mroczkowski

A: 日本(本州の津軽半島北端部)

B: Tappi (15.VI.1953)

C: 6月、竜飛部落の海岸で水際の石をおこすとたくさん見られた。

故林慶先生に“青森県からカバイロシジミが採れたという報告があるので、本当かどうか竜飛に行って調べて欲しい。地方の報文には時々誤った記事が載ることもあるので……”といわれたので阿部昭二氏と2人で竜飛に出かけた時に採れたものである。珍しい虫とわかったので、8月に行った時にも水際の石をおこしたが探し出せなかった。今は青函トンネル工事のため海岸の様子が変わっているので採れないようである。

現在のところ、私が採った以外にどこからも採れていないようである。

### 2. クロシデムシ *Nicrophorus concolor* Kraatz

A: 日本(北海道・本州・四国・九州); 台湾、朝鮮、北支、蒙古

B: Nuruyu (16.VII.1940), Kuzukawa (30.IX.1956), Sukayu (8.VIII.1972), Juniko (16.VIII.1965), Fukaura (6, 13.VI.1975; 31.V.1976)

C: 5~10月、温湯ではカンヅメの汁、葛川ではゴミ捨て場に集まった。トラップによく入る。



3. ヒロオビモンシデムシ *Nicrophorus investigator* Zetterstedt

A : 日本(北海道・本州・四国・九州) ; 千島、樺太、満洲、支那、蒙古、シベリア、北インド、  
欧州

B : Nurukawa (9.X.1973), Towada (11.VIII.1955), Nakasato (28.IX.1966 ; 9.X.  
1965), Yunosawa (31.VII.1977)

C : 8~10月、カンヅメの汁を入れたトラップに入った。湯の沢では後の2種と共に沢の水際の石  
下にいた。不思議に思っていると、そのわきにカエルの死がいがあって非常に臭っていた。

4. ヨツボシモンシデムシ *Nicrophorus quadripunctatus* Kraatz

A : 日本(北海道・本州・四国・九州) ; 支那

B : Nurukawa (30.V.1976), Towada (29.VIII.1963 ; 13.VI.1976), Sukayu (8.VIII.1972),  
Yasute (22.VI.1963), Futatsumori (6, 10.VII.1971), Nakasato (28.IX.1966), Oirase  
(16.VII.1965), Fukaura (28.IX.1975), Juniko (16.VIII.1965), Yunosawa (31.VII.1977)

C : 5~9月、もっとも普通に腐肉トラップにごっそり入っていることが多い。

5. マエモンシデムシ *Nicrophorus maculifrons* Kraatz

A : 日本(本州・四国・九州)

B : Nurukawa (30.V.1976), Towada (13.VI.1976), Sukayu (8.VII.1972), Yunosawa  
(31.VII.1977)

C : 5~8月、腐肉トラップに入る。

6. ヒメモンシデムシ *Nicrophorus montivagus* Lewis

A : 日本(本州・四国)

B : Aoni (26.V.1940 ; 14.VI.1964), Nurukawa (18.V.1976 ; 30.V.1976), Towada  
(1.VI.1976 ; 10.VIII.1961), Sukayu (2.VI.1972 ; 8.VIII.1972), Masukawa (6.VI.1974)

C : 5~8月、腐肉トラップに入る。これまではあまり多いものでないと思っていたが、1976年の  
温川ではトラップにたくさん入っていた。

7. コクロシデムシ *Ptomascopus morio* Kraatz

A : 日本(北海道・本州・四国・九州) ; 朝鮮、台湾、支那

B : Kuzukawa (12.VII.1957), Futatsumori (8.VII.1971), Fukaura (25.VIII.1973 ; 13.  
VI.1975 ; 31.V.1976), Juniko (16.VIII.1965)

C : 5~8月、ニツ森・深浦ではトラップに入った。

8. オオモモプトシデムシ *Necrodes asiaticus* Portevin

A : 日本(北海道・本州・四国) ; 千島、朝鮮、シベリア、蒙古、チベット、北インド

B : Kuzukawa (25.X.1975 ; 3.XI.1958), Towada (17.VI.1956 ; 14.VIII.1962), Sukayu  
(11.VIII.1970 ; 13, 18.VIII.1974)

C : 6~11月、十和田山地で6月にカエデの樹液にきていた。酸ヶ湯では1970年に灯に飛来したも  
の、1974年に便所の中に入っていたものが採集されている。

9. モモプトシデムシ *Necrodes nigricornis* Harold

A : 日本(北海道・本州・四国・九州) ; 台湾

B : Nuruyu (18.VII.1943), Nurukawa (21.IX.1958), Fukaura (16.VIII.1972 ; 2.VI.1973)

; 16 . VI . 1975 ; 27 , 31 . V . 1976 ; 7 , 16 . VI . 1976 )

C : 5 ~ 9 月、温湯では便所の中を歩いていたものを採った。深浦ではトラップに入った。

10. オオヒラタシデムシ *Eusilpha japonica* Motschulsky

A : 日本 ( 北海道・本州・四国・九州 ) ; 台湾

B : Fukaura ( 12 , 16 . VIII . 1972 ; 7 , 12 , 13 , 16 . IX . 1973 ; 6 , 13 . VI . 1975 ; 28 , 30 . IX . 1976 .  
; 2 , 5 , 12 , 14 . X . 1976 )

C : 6 ~ 10 月、トラップに落ちこんだものを採集した。

11. ホソヒラタシデムシ *Silpha longicornis* Portevin

A : 日本 ( 本州中部以北 )

B : Hirukaizawa ( 21 . VI . 1941 ) , Nurukawa ( 21 . IX . 1958 ; 3 . XI . 1958 ; 28 . V . 1967 ) ,  
Ohbokutai ( 13 . VI . 1955 ) , Towada ( 23 . VI . 1968 ) , Aoshikayama ( 9 . VIII . 1974 ) , Yagata-  
ishiyama ( 11 . VIII . 1975 )

C : 5 ~ 11 月、トラップに落ちこんでいる。十和田山地では腐りかけたタケノコの液にきていた。

12. クロヒラタシデムシ *Phosphuga atrata* Linné

A : 日本 ( 北海道・本州 ) ; 樺太、シベリア、中央アジア、欧州

B : Hirukaizawa ( 17 . X . 1945 ) , Nurukawa ( 24 . IX . 1955 ; 23 . X . 1955 ; 21 . XI . 1954 ; 3 .  
XI . 1958 )

C : 9 ~ 11 月、朽木の皮下にいるものが採集される。

13. ヨツボシヒラタシデムシ *Xylodrepa sexcarinata* Motschulsky

A : 日本 ( 北海道・本州・四国・九州 ) ; 東シベリア

B : Aoni ( 26 . V . 1940 ) , Towada ( 12 , 17 . VI . 1955 ) , Nurukawa ( 15 . V . 1955 ; 27 . V .  
1956 ) , Juniko ( 16 . VIII . 1965 )

C : 5 ~ 8 月、乾燥した魚類などによってくる。また、エゾニュウなどの花上にいる。

14. ピロウドヒラタシデムシ *Oiceoptoma thoracica* Linné

A : 日本 ( 北海道・本州中部以北 ) ; 樺太、台湾、蒙古、支那、シベリア、欧州

B : Nurukawa ( 27 . V . 1956 ; 21 . IX . 1958 ; 3 . XI . 1958 ) , Ohbokutai ( 13 . VI . 1955 ) , To-  
wada ( 23 . VI . 1968 ; 2 . VI . 1972 ; 3 . VI . 1973 ) , Sukayu ( 8 . VIII . 1972 )

15. クロボシヒラタシデムシ *Oiceoptoma nigropunctata* Lewis

A : 日本 ( 本州 )

B : Nuruyu ( 6 . VI . 1940 ) , Nurukawa ( 27 . V . 1956 ; 30 . V . 1976 ) , Towada ( 2 . VI . 1972 ) ,  
Yasute ( 28 . IV . 1972 ) , Futatsumori ( 14 . VII . 1971 ) , Fukaura ( 2 . VI . 1973 ; 31 . V . 1976 ) ,  
Juniko ( 16 . VIII . 1964 )

C : 5 ~ 8 月、トラップにもっとも普通に落ちこむ。十二湖では獣糞より得た。

16. カバイロヒラタシデムシ *Oiceoptoma subrufa* Lewis

A : 日本 ( 北海道・本州 ) ; 千島、樺太

B : Nuruyu ( 6 . VI . 1940 ) , Nurukawa ( 16 . VI . 1967 )

C : 6 月、数が非常に少ないようである。

17. ヒメヒラタシデムシ *Thanatophilus auripilosus* Portevin

A : 日本 (北海道・本州・四国・九州) ; 千島、樺太、朝鮮、支那、シベリア

B : Nuru-yu (6.VI.1940), Okidate (2.IX.1964), Kashiwagi (21.VIII.1974), Fukaura (29.V.1973; 2,5.VI.1973), Juniko (21.VI.1963)

C : 5~9月、腐肉のトラップに入る。柏木ではゴミ捨て場に集まっていた。

18. オニヒラタシデムシ *Thanatophilus subrugosus* Portevin

A : 日本 (本州・四国)

B : Fukaura (2.VI.1973; 16.VI.1975; 5,7,9,12,14,16,18,20.X.1976)

C : 6~10月、腐肉のトラップに落ちこんだ。深浦から竹越氏の採ったもの以外に見ていない。

※ 口絵写真の番号は本文中の番号のシデムシを示す。

次回、さやばねNo.5は「**北海道の甲虫特集号**」です。

今回は地元・北海道の鈴木茂・野田佳之・五十幡直樹氏らの協力を得て、「北海道のカミキリリスト」を発表するとともに、北海道の甲虫に関するさまざまな記事を集め、特集号としたいと思います。

グラビア10~20ページ、本文100ページ以上のかつてない大冊とする予定で、原稿を集めています。今回のさやばねNo.4が薄いのも次回にたくさんお金を食われそうなのでひかえているためです。

来春発行の予定なので、まだまだ間に合います。北海道の甲虫に関する面白い資料、コメントをお持ちの方は、ぜひ編集部まで原稿をお寄せ下さい。

なお、「北海道のカミキリリスト」に関するお問い合わせは

道内では、〒061-21 札幌市南区真駒内上町1-4

シン航空写真(株)青雲寮、鈴木茂方へ。

その他、特集号に関しては藤田までお問い合わせ下さい。



日本鞘翅目学会・会員動静

( 1977年5月2日～1978年6月1日 )

○新入会員

会員番号 氏 名 郵便番号 住 所





○ 住所変更（新住所）





◦退 会



◦寄 付



◦維持会員



※ 以上の方々から、寄付金および維持会員会費をいただきました。御協力を厚く感謝いたします。

(会 計)



## 収 支 決 算 報 告

( 1977年1月1日～1977年12月31日 )

収	入	支	出
前期繰越	2,923	さやばね№2印刷代	129,000
入会金	18,500	ELYTRA Vol.4 №2印刷代	176,700
バックナンバー代	323,000	同別刷代	4,500
1977年度分会費	586,000	さやばね№3印刷代	312,700
1978年度分会費	231,000	同別刷代	15,900
1978年度以降分の会費	17,000	ELYTRA Vol.5 №1印刷代	268,100
別刷代	24,770	同別刷代	21,700
広告料	145,800	ELYTRA Vol.5 №2印刷代(1部)	100,000
預金利子	771	パンフ類印刷代	4,000
雑収入	15,540	写真代	14,530
写真代	3,270	送料	156,730
第2回総会の食事代	20,000	事務関係費	38,880
(東京通販サービス社より)	20,000	第2回総会の食事代	20,715
第2回総会会員外会場費	1,800	雑費	6,790
		次期繰越	120,129
	1,390,374		1,390,374

## 編 集 後 記

私事になりますが、今年の4月より「月刊むし」誌の編集者となりました。とうとう雑誌作りはプロになってしまったわけで、これからはアマチュアとは一味違った編集技術を身につけていかなければならなくなりました。

本業以外に、「ELYTRA」「さやばね」の発行、台湾のカミキリ大図鑑の編集……と永遠に用事が山積みになっている気がしますが、これは気のせいだ……何かの間違いだ……と思わなければ酷暑の中、やってられません。本作りは企画を作ることと、原稿を集めることが60～70%で、残りの仕事は慣れればたいしたことはありませんが、企画・原稿集めだけはいくら慣れてもうまく能率化できず、ラクになりません。

どなたか「ELYTRA」「さやばね」作りを手助ってくださいる人はいませんか？ 本作りのことは何も知らない人でも大歓迎！ 1からお教えします。特に時間のある学生虫屋にお願いしたいのですが……

会誌作りなどは、できる人が複数いて持ちまわりでやっていく方が、その人なりの持味のある本ができて、会誌の内容にも幅と変化ができ、面白味が増しますし、1人1人の負担が少なくなり余裕をもってじっくり作れます。

本を作ることに関心ある方をお待ちしています！

(1978年8月15日、藤田 宏)

## —日本産および台湾産カミキリ大図鑑発行のお知らせ—

昨年11月の総会席上で発表されましたが、“日本鞘翅目学会編集”で「日本産カミキリ大図鑑」および「台湾産カミキリ大図鑑」を製作することが決定いたしました。いずれも原色図鑑で、A4版とかなり大がかりなものとなる予定です。価格は比較的高価なものとなりそうですが、会員には割引価格で配りますので、よろしくお買い求めのほどをお願いいたします。

### ●台湾産カミキリ大図鑑（1979年発行、築地書館）

草間慶一他著

- 約600種を掲載。世界で初めての台湾産カミキリ図鑑！
- 日本のカミキリとごく近縁なカミキリ達をオールカラーで見ることができます（全種和名つき）。琉球のカミキリを語るのに不可欠。
- 和英両用図鑑。
- 新種・新亜種の記載、シノニム・所属新変更種の英文記載を含む。

発行担当者：藤田 宏 〒110 台東区台東2-29-6

TEL 03(831)3830

### ●日本産カミキリ大図鑑（1980年発行、講談社）

草間慶一・高桑正敏著

- 現在までに知られる日本産カミキリの全種を紹介。（総計1500頭前後所蔵）
  - 新種・新亜種の記載、シノニム・所属新変更種の英文記載を含む。
  - 日本産カミキリムシ全種の分布表（地図）つき。
- その他、研究法入門など日本のカミキリムシ科の総まとめといった図鑑。

発行担当者：高桑正敏 〒236 横浜市金沢区六浦町3577

TEL 045(701)6520

※図鑑の印税等は、会誌の増ページ、例会の充実をもって会員に還元していきたいと思っております。

さやばね №4 昭和53年8月30日発行

編集者：藤田 宏 印刷：岩峰社

発行所：日本鞘翅目学会（〒110 東京都台東区東上野4-26-8、福田惣一方）

# より高度な蒐集・研究は文献から!

## ◇甲虫関係新刊ご案内◇

### ●C.-W. Kim

Distribution Atlas of Insects of Korea Series II Coleoptera

韓国昆虫分布図鑑(2)甲虫篇 A4版 430pp. 1原色図版 34図版 355地図

第1集のチョウ篇に続いて、甲虫篇が刊行されました。

チョウ篇同様、458種を図説し、1種又は2種ごとに詳しい分布図、産地、出現期などが、英文で記されています(地名・後記のみ韓国語併用)。発行数の少ない刊行物ですのでお早目に。

(注文コード KR-011) ¥15,950 (〒590)

—なお、第1集チョウ篇も在庫しております《¥6,500 (〒240)》—

### ●Turin, H., J. Haeck & R. Hengeveld

Atlas of the Carabid Beetles of the Netherlands.

オランダ産オサムシ類分布図 B5版 288頁 372地図 6図表

オサムシ類(広義、ハンショウを含む)のオランダとヨーロッパにおける詳しい分布を1種ごとに付し、成虫の出現期と消長をグラフで表わしている。(NH-021) ¥7,000 (〒200)

### ●大平, 佐藤, 佐々治

日本産甲虫目録(第2集)

ドロムシ科・ヒメドロムシ科・ダエンマルトゲムシ科・コマツキムシ科(1)・ミジンキスイムシ科・ホソカタムシ科・カクホソカタムシ科以上、7冊セット 表紙付

(CJ-s02) ¥800 (〒120)

—第1集(クワガタムシ科他7冊組)も在庫しています(CJ-s01) ¥800 (〒120)—

◇高橋寿郎 兵庫県産甲虫類に関する文献目録 B5, 17頁 ¥250 (〒120)

◇楠博幸・菅晃 愛媛県のカミキリムシ B5, 56頁2図版5図 ¥800 (〒160)

◇鹿児島昆虫同好会 霧島山の昆虫(1)(2) B5, 50頁 2冊セット ¥700 (〒160)

昆虫洋書・地方図書は専門の小社へ

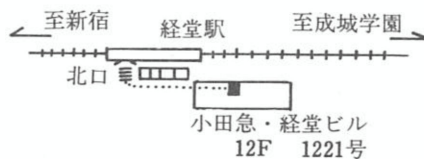
**東京通販サービス社**

〒156 東京・千歳郵便局私書箱33号

小田急経堂ビル12F 1221号

☎(03)426-6012 郵便振替 東京0-73, 156

お近くの方は小社(小田急経堂駅前)へ!  
昆虫関係図書常時1,000タイトル以上在庫  
水曜定休・平日10~19時・日曜祭日13~17時  
JCBカード加盟店 在庫リスト(3回分¥200)



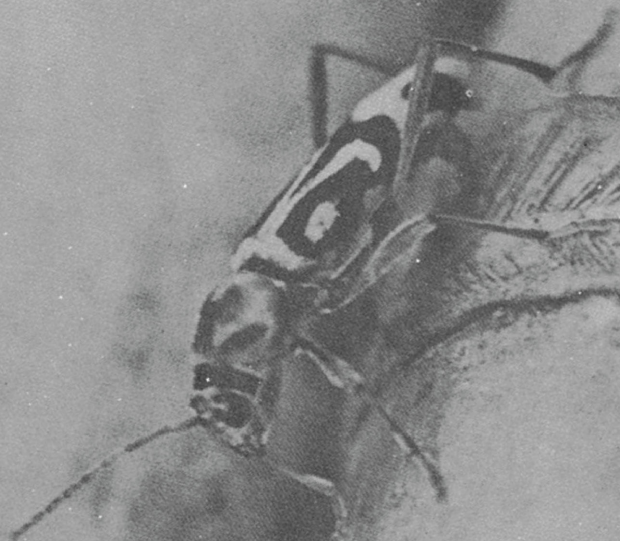
ご注文はハガキに署名捺印の上(18才未満は保護者印)ご注文下さい。直ちにお送りいたします。代金は到着後5日以内にご送金下さい。送料は2冊以上になると安くなります。又1回のご注文に¥200の書留料を加算いたします(但し前金不用)



株式会社

# 志賀昆虫普及社

〒110 東京都渋谷区渋谷1丁目7番6号(宮益坂上)  
TEL. 03 (409) 6401 (代) 振替/東京21129



●新製品/最上質ステンレス製シガ有頭昆虫針  
0. 1. 2. 3. 4. 5号発売中

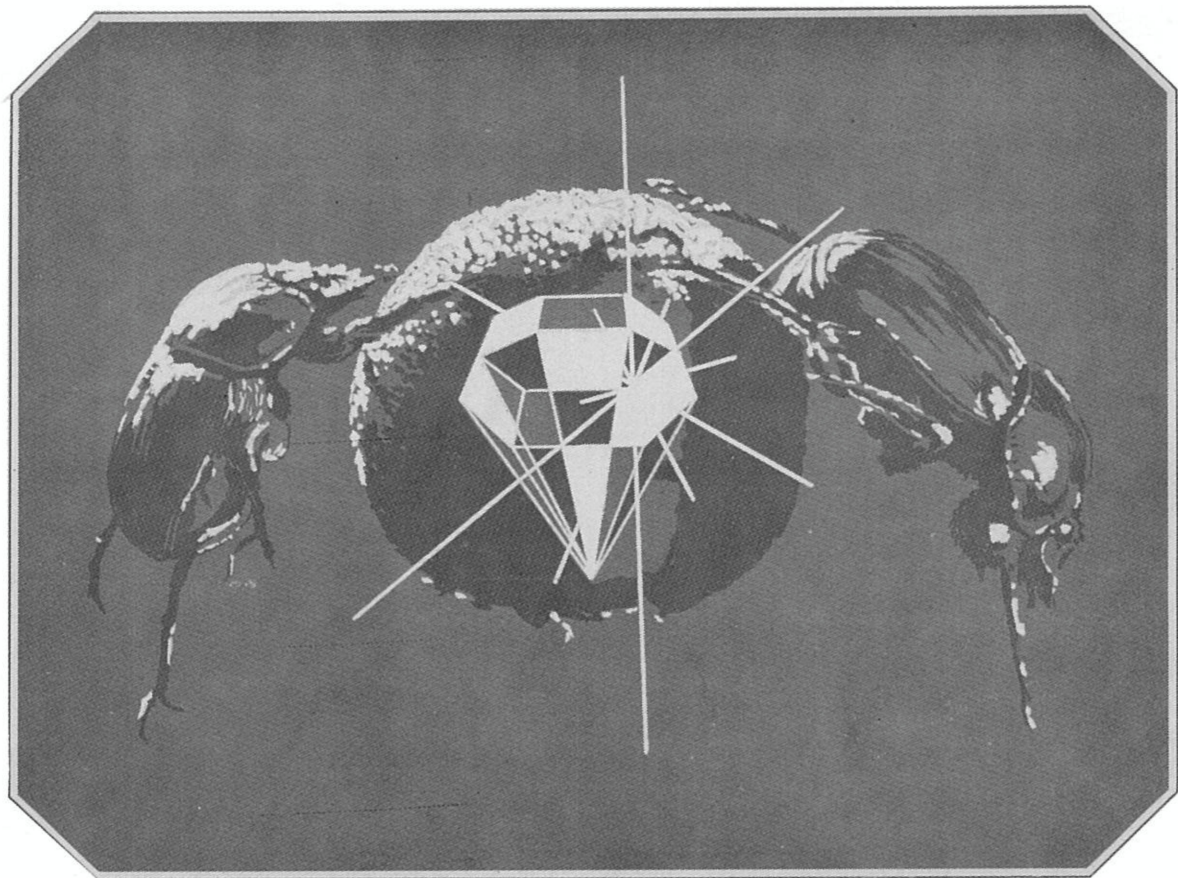
●専門用カタログあり 要郵券 140円

営業種目 採集瓶・採集箱・幼虫胴乱・採集バンド・展翅板類・  
飼育用具・顕微鏡・標本箱各種・三角ケース・捕虫網・標本瓶・植  
物採集用具・殺虫管・プレパラート製作用具・名箋・ピンセット・  
平均台・液浸用管瓶・ルーペ類・コルク類・その他

営業時間：9時～18時

休日：毎日曜，祝祭日，10月1日





# 真珠より美しく ダイヤより価値がある 大切な標本を永久に守る 《ドイツ型標本箱》

自然はますます大切なものとなってきました。この不思議な世界を解明する貴重な手掛りとなる昆虫標本は、価値あるものとして永久に保存したいものです。

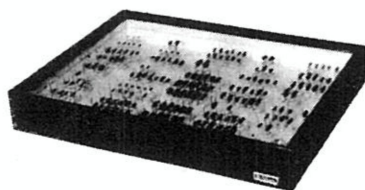
そんな願いをこめて、タツミ製作所では、昆虫標本の保存に最適なドイツ型標本箱をお届けします。

## \*すばらしい特長

- くるいのこない良質な木材を使用
- 湿気や乾燥にも強い独特の構造
- パラゾールにも変化せず、標本がより美しく見える白色プラスチック底
- 高級ニス塗装の丈夫で美しい仕上げ

※標本箱のほか、展翅板など昆虫標本作成に必要な器材もあります。  
昆虫器材カタログ、昆虫関係輸入図書・委託図書リストもあり。  
〒113 東京都文京区湯島二丁目一丁目二五番 〇三(八一)四五四七  
郵便振替 東京一三三七九

(有)タツミ製作所



大型  
4,500円(送料別)

中型  
4,000円(送料別)

この価格は昭和51年4月現在のものです